

土木設計「排水構造物設計シリーズ」のご案内



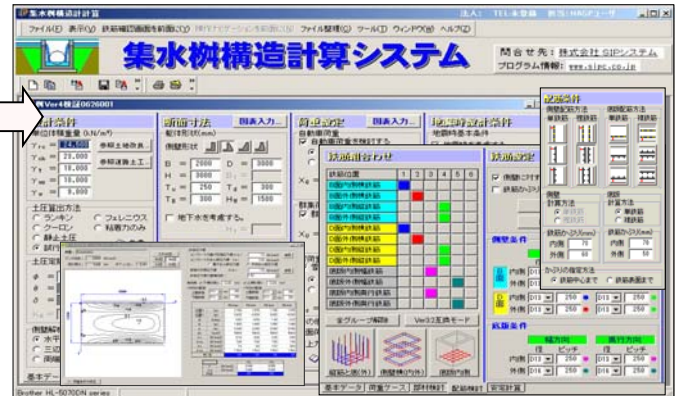
土木・土地改良設計業務に携わる皆様への「排水構造物設計シリーズ」のご案内です。

土地改良基準「水路工」に準拠した「水路設計計算システム」、柵構造の計算を行う「集水柵構造計算システム」また、水路の蓋版や底版の杭基礎スラブ板の解析が可能な「長方形板の計算システム」および「杭基礎スラブ板の検討システム」等、設計業務の身近な設計ソフトウェアとしてご検討頂ければ幸いです。 (株) S I Pシステム



＜ 水路設計計算システム / ¥209,000 (税+HASP 込) ＞

- ①水路工の常時・地震時の安定計算および部材断面照査を行い、左右側壁の高さが異なる偏土圧の検討も可能。
- ②浮上の検討では、必要フーチング幅を自動計算。
- ③滑動の検討で安全率を満足しない場合反力を考慮して検討。
- ④地震の検討時、内外水位に対し動水圧を考慮可能。
- ⑤水路上面の蓋版等の上面荷重を考慮可能。
- ⑥無筋・鉄筋コンクリートの断面応力度照査が可能。
- ⑦計算書は、プレビュー表示後印刷、Word出力も可能。



＜ 集水柵構造計算システム / ¥220,000 (税+HASP 込) ＞

- ①柵構造(鉄筋・無筋コンクリート)の常時・地震時の部材断面検討および浮力、地盤支持力の検討が可能。
- ②側壁は「水平応力解析」「三辺固定スラブ法」「両端固定梁+三辺固定版」、底版は「四辺固定スラブ法」で解析。
- ③水平応力解析では、側壁に対する軸力の考慮が可能。
- ④断面検討は、側壁(前面・側面)底版の全12断面について応力度照査が可能。また、 L_y/L_x 比を超える計算も可能。
- ⑤計算書は、プレビュー表示後印刷、Word出力も可能。

＜ 長方形板の計算システム / ¥121,000 (税+HASP 込) ＞

RC、鋼板の「有限要素法」および「級数解」による板の解析プログラム

＜ 無圧トンネル構造計算システム / ¥1121,000 (税+HASP 込) ＞

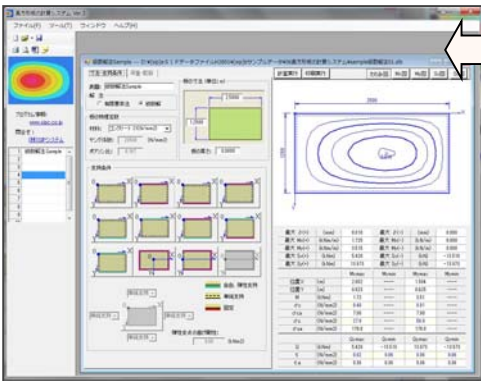
「水路トンネル」準拠した「円形・ほろ形・馬蹄形」の断面検討プログラム

＜ 杭基礎スラブ板の検討システム / ¥115,000 (税+HASP 込) ＞

水路、柵等で、杭が配置される長方形板(スラブ)の断面検討プログラム

＜ RC水路橋構造計算システム / ¥121,000 (税+HASP 込) ＞

鉄筋コンクリート水路橋について単純支持・連続支持の検討可能なプログラム



その他商品の紹介

1. 「洪水吐水理計算システム」(¥341,000)、「堤体の安定計算システム」(¥198,000)、「不等流水路水面追跡計算システム」(¥121,000)
2. 「管網計算システム」(¥319,000) + 「上水道給水量計算システム」(¥55,000) + 「DXFファイルコンバータ」(¥110,000)
3. 「無筋擁壁設計システム」「RC擁壁設計システム」「ボックスカルバート設計システム」など

(HASP+税込価格で表示)

株式会社 S I Pシステム

〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場 1-18-24-501

TEL : 06-6125-2232 FAX : 06-6125-2233

＜システム環境＞

OS : Windows 7&8 (32bit&64bit)、Windows10 (64bit)

HD : 500MB以上。USBポート&DVD-ROM必須。

＜お問い合わせは大阪事務所まで＞

- ・1個の同じタイプのHASPには、複数の商品を登録可能です。
- ・商品に関するご質問を(Mail/Tel)お受けしております。(受付時間 平日9:00~17:00)
- ・商品の詳細は、弊社ホームページでもご確認いただけます。
<http://www.sipc.co.jp> mail@sipc.co.jp

1. 設計条件

1.1 単位換算表

項目	記号	値	単位
基礎コンクリート	V_{10}	24,500	kg/m ³
土	V_{10}	18,000	kg/m ³
水中土	V_{10}	10,000	kg/m ³
水	V_{10}	9,800	kg/m ³

1.2 形状

項目	記号	値	単位	備考
基礎高さ(右側)	H_{10}	2100	mm	
基礎高さ(左側)	H_{10}	1500	mm	
基礎幅(右側)	B_{10}	2000	mm	
基礎幅(左側)	B_{10}	300	mm	
基礎土層厚(右側)	T_{10}	400	mm	
基礎土層厚(左側)	T_{10}	200	mm	
基礎土層厚(中央)	T_{10}	100	mm	
基礎厚	T_{10}	300	mm	
パッド層(高さ)(右側)	T_{10}	100	mm	
パッド層(高さ)(左側)	T_{10}	100	mm	
基礎中心	H_{10}	1500	mm	
地下水位(右側)	H_{10}	1500	mm	
地下水位(左側)	H_{10}	1500	mm	

・右側土層の角に斜線は引け、内挿はとする。
・左側土層の角に斜線は引け、内挿はとする。

2 荷重データ

2.1 地形土質表

項目	記号	値	単位	備考
コンクリート	V_{10}	24,500	kg/m ³	
土	V_{10}	18,000	kg/m ³	
水中土	V_{10}	10,000	kg/m ³	
水	V_{10}	9,800	kg/m ³	
基礎土層厚(右側)	T_{10}	400	mm	
基礎土層厚(左側)	T_{10}	200	mm	
基礎土層厚(中央)	T_{10}	100	mm	
基礎厚	T_{10}	300	mm	
パッド層(高さ)(右側)	T_{10}	100	mm	
パッド層(高さ)(左側)	T_{10}	100	mm	
基礎中心	H_{10}	1500	mm	
地下水位(右側)	H_{10}	1500	mm	
地下水位(左側)	H_{10}	1500	mm	

・右側土層の角に斜線は引け、内挿はとする。
・左側土層の角に斜線は引け、内挿はとする。

3 設計条件

3.1 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

3.2 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

4 設計条件

4.1 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

4.2 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

●水路設計計算の出力

- 1) 入力データ
- 2) 安定/部材断面計算
- 3) 設計水平震度
- 4) 許容地盤支持力
- 5) 鉄筋組立図

5 設計条件

5.1 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

5.2 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

6 設計条件

6.1 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

6.2 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

7 設計条件

7.1 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

7.2 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

●集水桝構造計算の出力

- 1) 入力データ
- 2) 桝断面照査計算書
- 3) 浮き上がり
- 4) 地盤支持力

8 設計条件

8.1 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

8.2 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

●杭基礎スラブ板の検討システム

- 1) 作用荷重の入力方法
- 2) 計算書(プレビュー表示)

9 設計条件

9.1 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

9.2 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

5. 断面設計

5.1 計算式

記号説明
h: 部材厚
b: 部材幅
d: 有効深さ
n: コンクリート比 = 15
A: 引張鉄筋断面積
p: 引張鉄筋比 = $A_s / b \cdot d$
k: 有効深さ係数
 $k = \sqrt{np} \cdot \rho_p \cdot \rho_f$
x: 中心軸 = $k \cdot d$

コンクリートの曲げ圧縮応力係数 α_c
 $\alpha_c = \frac{2 \cdot M}{\sigma_c \cdot b \cdot d^2 \cdot x \cdot \gamma_c}$

鉄筋の引張応力係数 α_s
 $\alpha_s = \frac{M}{A_s \cdot d \cdot x \cdot \gamma_s}$

コンクリートの平均せん断応力係数 β_c
 $\beta_c = \frac{V}{b \cdot d}$

コンクリートの最大せん断応力係数 β_{cs}
 $\beta_{cs} = \frac{V}{b \cdot d} \cdot \frac{d}{k \cdot d}$

5.2 曲げモーメントに対する照査

引張側	X (mm)	Y (mm)	Z (mm)
曲げモーメント	1,000	1,000	1,000
せん断力	1,000	1,000	1,000
せん断力係数	15	15	15
鉄筋量	285.3	285.3	285.3
コンクリートの引張強度	0.18	0.18	0.18
鉄筋の引張強度	7.00	7.00	7.00
鉄筋の引張強度	18.8	8.8	22.5

6. 有限要素法

6.1 要素分割

要素分割の方法は、要素の形状と大きさを指定する。要素の形状は、要素の形状によって異なる。

6.2 計算式

要素の形状と大きさを指定する。要素の形状は、要素の形状によって異なる。

6.3 最大たわみおよび最大断面力

項目	たわみ (mm)	位置 (m)
最大たわみ	0.00	1.772
最大たわみ	0.02	2.180
最大たわみ	-0.51	1.875
最大たわみ	1.20	1.777
最大たわみ	-3.00	1.875
最大たわみ	11.15	2.500
最大たわみ	-8.27	2.500
最大たわみ	15.34	2.441

7. 設計条件

7.1 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

7.2 設計条件

基礎コンクリートの強度は、 $f_{ck} = 24.5 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の強度は、 $f_{tk} = 18.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の圧縮強度は、 $f_{ck} = 10.0 \text{ N/mm}^2$ とする。
基礎土の引張強度は、 $f_{tk} = 9.8 \text{ N/mm}^2$ とする。

●長方形板の計算の出力

- 1) 有限要素法解析
- 2) 級数解法解析
- 3) 鉄筋コンクリート
- 4) 鋼、鋳鋼、鋳鉄
- 5) 断面力/応力度評価

出力例の詳細等につきましては、弊社 HP 等でご確認下さい。